

因緣・化物譚

## 104 生き返った 大屋のアヒトウー

今の南風原村の兼城かねむすくという部落がありますが、そこ  
に大屋うふやというのがありますね。そこにアヒトウーとい  
う男がいた。アヒトウー。この男は、吐いたりして、  
とにかくコレラみたような病気で吐いたり下痢したり。  
そして急に亡くなつてね。これはもう部落民の人がね、  
「これは伝染病だ。人にうつる病気だから早く葬式を  
せないといかん」ちゅうて、大急ぎで棺桶に入れて、  
持つて行つて、墓に。石の穴のあるところ入にれて。  
あちからもちちからもち石つころ詰めてね。そして  
もう、逃げて帰つてきた。

帰つたら、この人が仮死状態であつたにちがいない。  
それから、墓の中で生き返つていたんですね。この桶  
の蓋を開けてね。そして、  
「助けてくれえ、助けてくれえ。水が欲しい、水が欲  
しい」と言うたんだらう。そこに、これを聞いたのは、  
その二、三日後で、青年たちが牛馬の餌取り、草刈り

に行つたんですね。それで、にわかには雨が降つたもん  
だから、その墓の近くに、石の突き出たところに雨宿  
りにちよつと行つたわけですね。行つたら、墓の中か  
ら声が出て、

「助けてくれえ、助けてくれえ」と聞こえるもんだか  
ら、この青年二人も鎌を振るつてね、

「化け物だ。大変だ、こりゃ」と。もうそれから一目  
散に逃げて家帰つて。

「もう大変だ。墓の中でね、化け物が小声を出して、  
助けてくれちゅうとつた」。それから、

「これは大屋のアヒトウーが死んだあれだ。死んでお  
るのに生きるはずがあるか」

「いや、生きとつた」。

で、それからね、その翌日評判になつてね、行つて、  
墓を開けてみた。ゆつくりゆつくり墓に近づいたら、  
「助けてくれえ、助けてくれえ。水飲ましてくれ、水  
飲ましてくれ」て。だからもう、みんな墓をまた、  
石を取つて退けてね、棺桶から出した。出したら今度、  
水を飲ましたら生き返つた。それを連れてきた。その  
七日、お祭りをしようというて、準備してるお金でお

祝いたという話がある。

それでね、このナーチャミーという、人が死んだら必ずよくあるね。人が死んだら墓に入れて、ナーチャミーというのは今でもありますよ。必ずやるんですね。翌日、墓参りして早く行つて見るんですね。生きていないかなあちゅうて。それ、あつたんですね。

それから、あれは死んだ人がいわくですね、生き返つた人の話が、今度は。これが冥土の、

「大変ですよ、冥土はね。奈落の地獄の話が聞こえた」と。

「どういう話だったか」ちゅうて聞いたら、アヒトウーがね、

「実は、八月十日にね、生きた人間の家行つてね、その人の魂を抜き取りに来るという話を聞かされたもんだから、もし生きた人がね、（桑の木の葉とススキの葉と混ぜてこう結んでね、家の軒に全部挿すよ、あちらこちらに。今でもあります。八月十日。今でもやる、これやるんですね。習慣が残つておる。）これをやったらね、そこに入れないと。そのうちにこの、地獄の連中がね、まあ言えば、閻魔王のお使いがね、その家

に入ることができない。生き肝を取りに行けないからね、これを干したらどうするかと、こういう話があつたから、八月十日には必ずそれを挿しなさい。家の軒に全部挿せ、挿しなさい」と、これを聞かされて、今でもそういう習慣が残つておると。

字糸満 田場天龍